

情報公開文書（複数施設研究用）

課題名	脳動脈瘤の破裂因子の管理下における未破裂脳動脈瘤の経過観察に関する研究			
研究期間	2024 年から 2026 年までの 3 年間			
研究の対象	オホーツク地区での未破裂脳動脈瘤のうち、破裂を予防するために、破裂因子の強化、すなわち、血圧の管理や禁煙、過度の飲酒を避けることに協力して頂ける患者さんが対象となります。			
利用する情報の種類	オホーツク圏内の各医療機関の診療情報から未破裂脳動脈瘤の転帰について調査します。			
情報の管理について責任を有する者	北見赤十字病院 脳神経外科 部長 木村輝雄			
外部への情報提供	多施設共同研究グループ内			
研究組織	日本赤十字社	北見赤十字病院	脳神経外科部長	木村輝雄
	日本赤十字社	北見赤十字病院	脳神経外科医師	藤川征也
	日本赤十字社	北見赤十字病院	脳神経外科医師	真田隆広
	日本赤十字社	北見赤十字病院	脳神経外科医師	鈴木望
	国立大学法人	旭川医科大学	脳神経外科助教	佐藤広崇
	国立大学法人	旭川医科大学	脳神経外科教授	木下 学
	北海道厚生連	網走厚生病院	脳神経外科部長	泉 直人
	北海道厚生連	遠軽厚生病院	院長	稲葉 聡
	広域紋別病院		院長	曾ヶ端克哉
	医療法人	北星記念病院	理事長・院長	松岡慶太
	社会医療法人	道東の森総合病院	脳神経外科	川崎和凡
	小林病院		脳神経外科	桐山健司
研究の意義・目的	脳動脈瘤破裂によるくも膜下出血の予防に対して、未破裂脳動脈瘤に対する破裂因子の管理や手術が行われているが、どの程度地域のくも膜下出血の減少に寄与しているかは明らかではない。脳動脈瘤の破裂因子の管理を強化して、未破裂脳動脈瘤の自然歴を考察し、未破裂脳動脈瘤の今後の follow の在り方について検討することが、この研究の目的です。			
研究の方法	オホーツク地区での未破裂脳動脈瘤のうち、破裂を予防するために、破裂因子の強化、すなわち、血圧の管理や禁煙、過度の飲酒を避けて生活して頂きます。脳 MRI の検査は従来通り 1 年に一度定期的に行う群と 3 年に一			

度脳 MRI の検査を行う群に任意に振り分け、3 年後に両群の間で、脳動脈瘤の変化や破裂率に差が生じるかを検討します。

その他

予想される利益

この研究に参加することで、定期的に破裂因子の管理を受けることができ、破裂因子の管理を強化することができる。3 年後の検査を受ける群は検査費用の節約ができ、将来的には、この研究で検査を減らすことができる可能性があります。

予想される不利益

定期的な通院（半年毎または 1 年毎）が必要となるが、従来の経過観察と変わらないため、この研究に参加する直接的な不利益はありません。3 年の間に脳動脈瘤の変化が生じ、破裂に至る可能性が非常に少ない確率（1.3%）で起こりえます。

お問い合わせ先

北見赤十字病院 脳神経外科 担当 木村輝雄

所在地 : 北見市北 6 条東 2 丁目 1 番地

電話 : 0157-24-3115